

都庁における柔軟な働き方（都庁版ABW）実態調査 結果概要

1. アンケート調査概要

職員が働く時間や場所を選択できる柔軟で多様な働き方の更なる推進に向け、「テレワーク」及び「勤務時間制度等」の実施状況やその効果を把握するため職員向けにアンケート調査を実施しました。

- ◆ 対象者 | TAIMS端末を利用する職員（教員を除く。）及びTS-NETを利用する水道局職員
- ◆ 実施期間 | 2025年9月2日（火）～9月22日（月）
- ◆ 回答者数 | 8,118人

<都庁版ABWの概要>

時間を選択



時差勤務、フレックスタイム制、週休3日等を活用

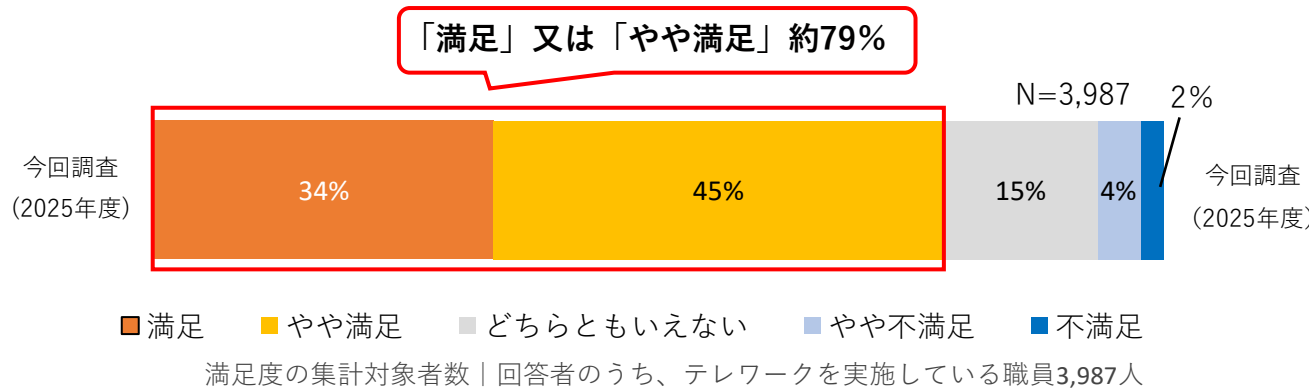
場所を選択



オフィスや自宅、サードプレイスを利用

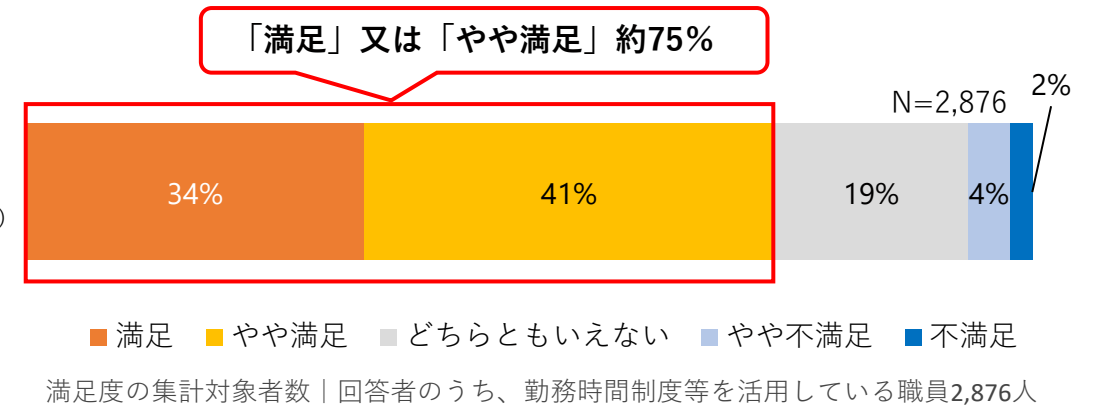
2. 調査結果概要

(1) テレワークの総合的な満足度



(2) 勤務時間制度等※の総合的な満足度

※ 時差勤務（勤務開始時間が午前8時まで、または午前10時以降）及びフレックスタイム制（週休日追加含む）等



▶ 「テレワーク」「勤務時間制度等」それぞれの満足度は約8割に達しており、**制度利用職員からの満足度は高い**（詳細な調査結果は次ページ以降）

3. 調査結果 (1) テレワーク

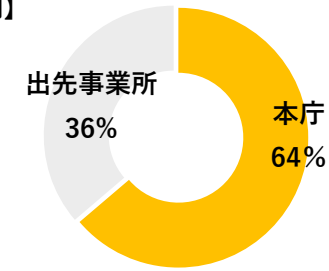
◆ テレワークの総合的な満足度の集計対象者数

ABW調査回答者8,118人のうち、
テレワークを実施している職員**3,987人**

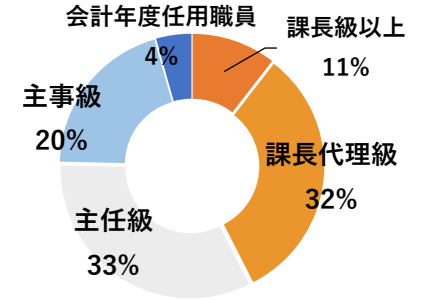
※テレワークについて、昨年度までは「テレワークに関する職員満足度調査」を実施していましたが、今年度は「都庁版ABW調査」（本調査）として実施しています。

◆ 集計対象者属性

【職場別】

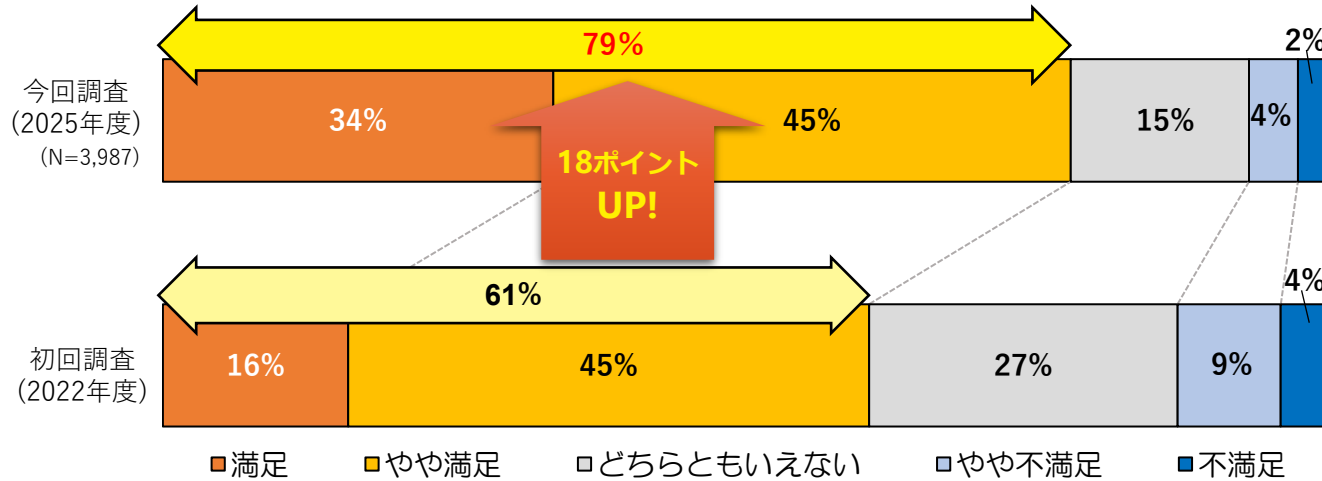


【職級等別】



□ 総合的な満足度

質問 | テレワークの総合的な満足度を回答してください



※満足度の目標 2025年度に80%以上

- ・満足層（満足・やや満足）は約79%で、2022年度の約61%から**18ポイントUP**、特に「満足」と回答した割合は倍増した
- ・不満足層（やや不満足・不満足）は約6%で減少した

【参考】都庁におけるテレワーク実施状況について

テレワーク実施率（2025年7月）：**45.2%**（※1）

※1 本庁に勤務する職員(会計年度任用職員を除く。)について、対象期間(1か月)中にテレワークを1回以上実施した職員の割合」を集計

【参考】令和7年度上半期に終日テレワークを実施したことで

創出された手取り時間 **一人当たり 約3.3日出勤分**（※2）
(終日テレワーク実施職員)

※2 終日テレワーク実施回数に通勤平均時間（1時間35分）※3をかけて算出した時間を終日テレワーク実施人数で割り返したもの（1日7時間45分勤務）

※3 出典：総務省統計局「令和3年社会生活基本調査結果」（2022年8月）

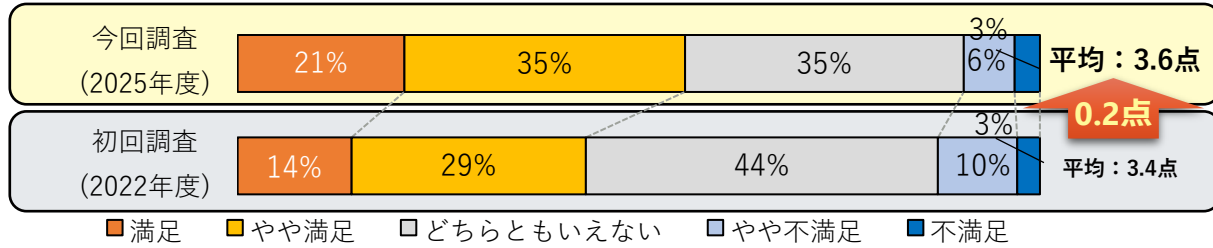
- ✓ 2022年度の調査開始以降、テレワークに関するノウハウの周知やコミュニケーションツール活用の促進等に取り組んだ結果、**テレワークにおける総合的な満足度は約8割に向上**し、ライフ・ワーク・バランスの向上にも寄与
- ✓ また、テレワークは**業務効率性にも一定の効果**を示しており、それに伴い、**超勤縮減や生産性向上にも寄与**している。

① 満足度の推移

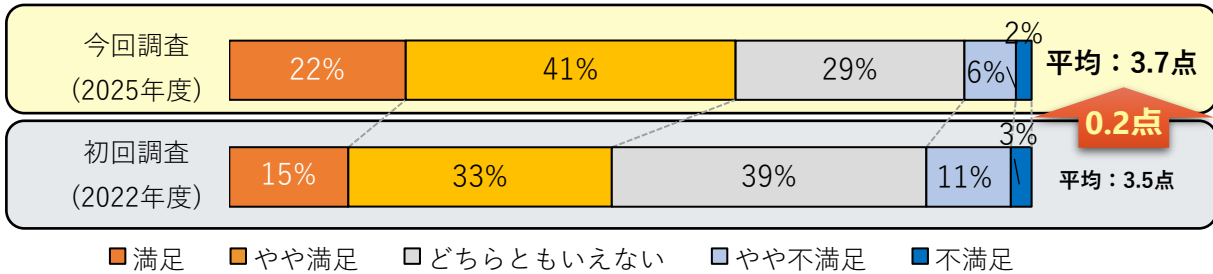
■ 「上司」・「部下又は同僚」とのコミュニケーションの満足度

質問 | テレワーク実施時の、「上司」・「部下又は同僚」とのコミュニケーションの満足度を回答してください
N=3,987

【上司】

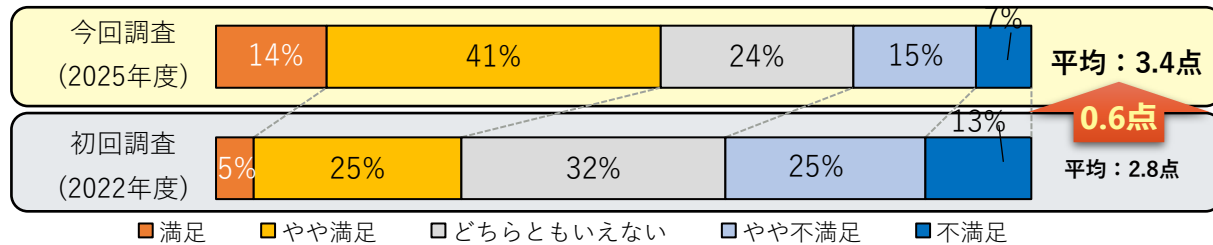


【部下・同僚】



■ テレワーク実施時の環境の満足度

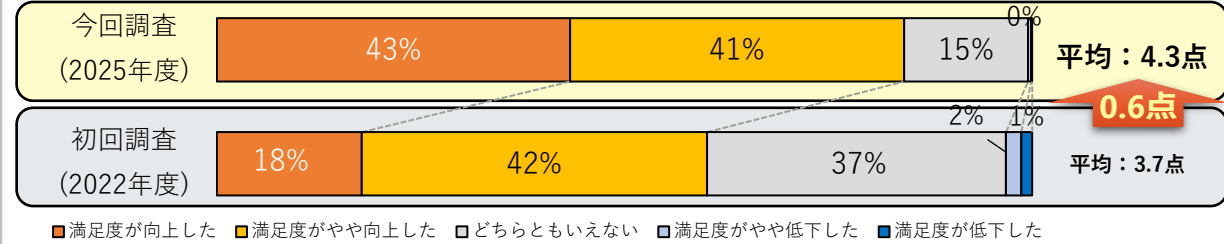
質問 | 業務のデジタル化やペーパーレス、通信環境など、テレワークを実施する環境の満足度を回答してください
N=3,987



※ 「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」を、それぞれ5点、4点、3点、2点、1点として算出（2022年度の選択肢「分からない」は平均から除外）

■ ライフ・ワーク・バランス上の変化

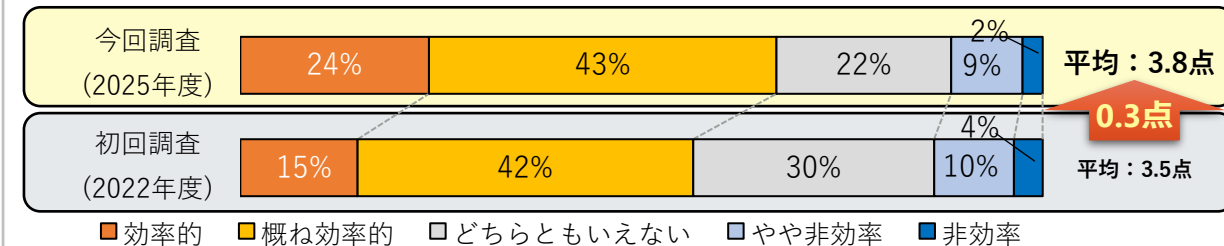
質問 | テレワークを活用することでライフ・ワーク・バランスは変化しましたか
N=3,987



※ 「満足度が向上した」「満足度がやや向上した」「どちらともいえない」「満足度がやや低下した」「満足度が低下した」を、それぞれ5点、4点、3点、2点、1点として算出（2022年度の選択肢「分からない」は平均から除外）

■ テレワーク時の業務効率性

質問 | 職場に出勤する場合と比較して、テレワークでの業務は、効率的に行えていますか
N=3,987

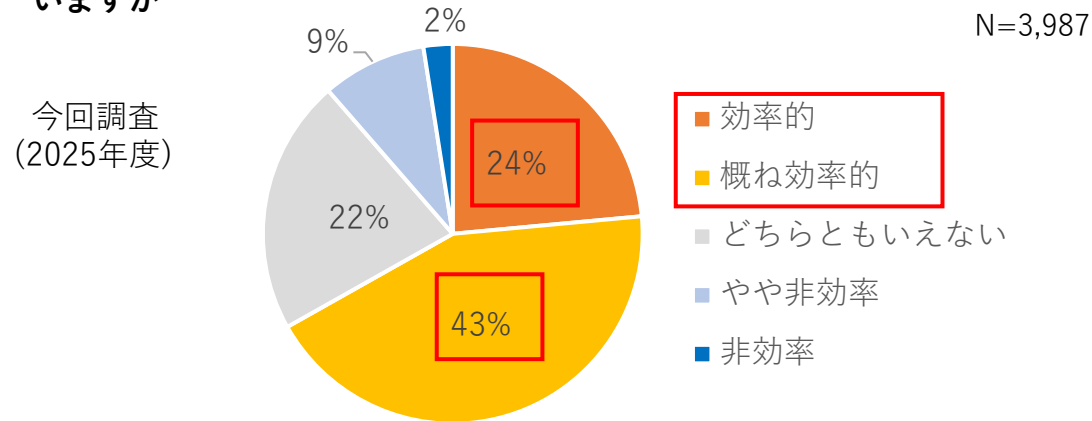


※ 「効率的」「概ね効率的」「どちらともいえない」「やや非効率」「非効率」を、それぞれ5点、4点、3点、2点、1点として算出（2022年度の選択肢「分からない」は平均から除外）

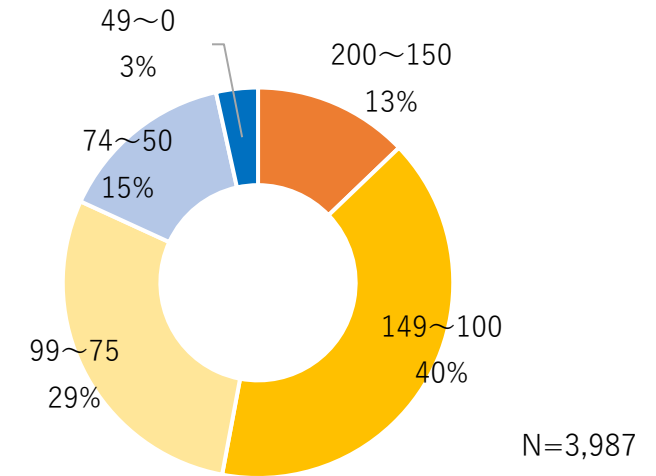
② テレワーク時の業務効率性・ライフ・ワーク・バランス上の変化

■ テレワーク時の業務効率性

質問 | 職場に出勤する場合と比較して、テレワークでの業務は、効率的に行えていますか

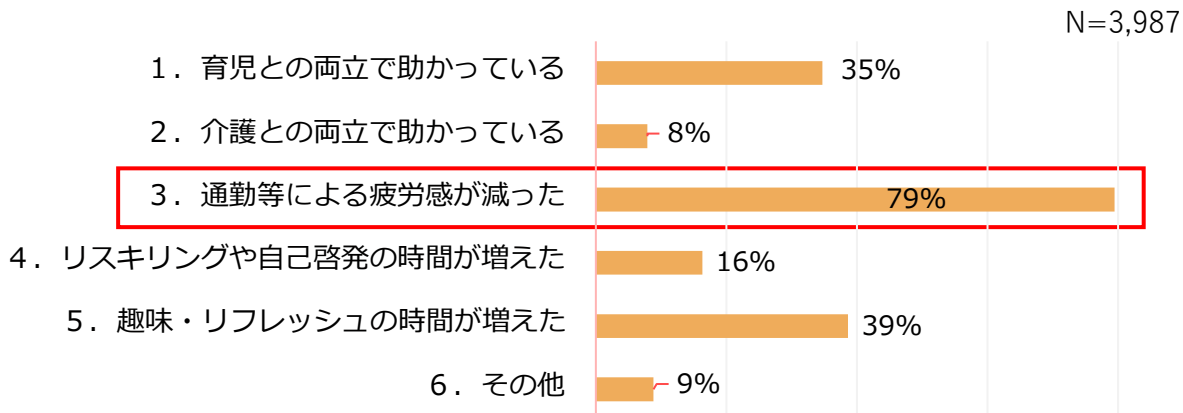


質問 | 出勤時の業務の効率性を100としたとき、テレワーク時の業務の効率性はどのくらいですか。0～200の数字で回答してください

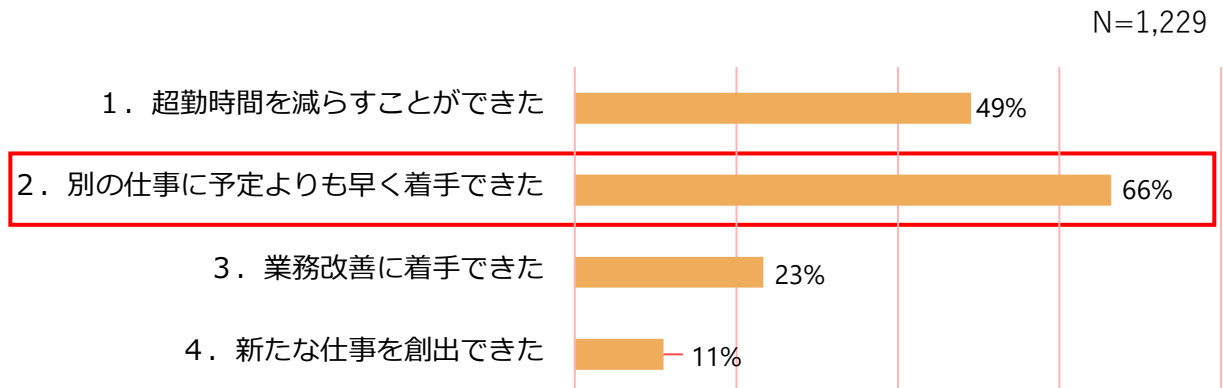


■ ライフ・ワーク・バランス上の変化

質問 | テレワークを活用することで生じたライフ・ワーク・バランス上の変化等について、当てはまるものを全て選択してください（複数選択可）



質問 | 【効率性が100より大きい方にお聞きします。】業務において、テレワークを効率的に行ったことで得られた時間は何に活用できましたか（複数選択可）



調査結果（2）勤務時間制度等

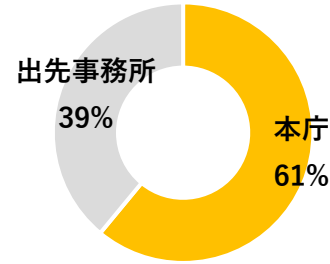
◆ 集計対象者数

ABW調査回答者8,118人のうち、
勤務時間制度等を実施している職員※ 2,876人

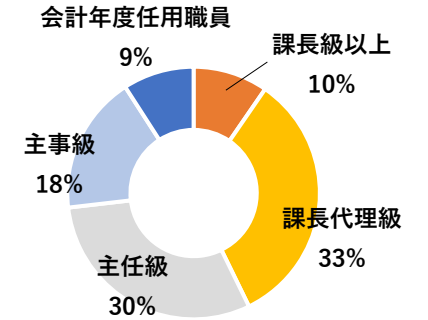
※ 時差勤務（勤務開始時間が午前8時まで、または午前10時以降）、
フレックスタイム制（週休日追加含む）いずれかの制度を利用している職員（複数回答可）

◆ 集計対象者属性

【職場別】



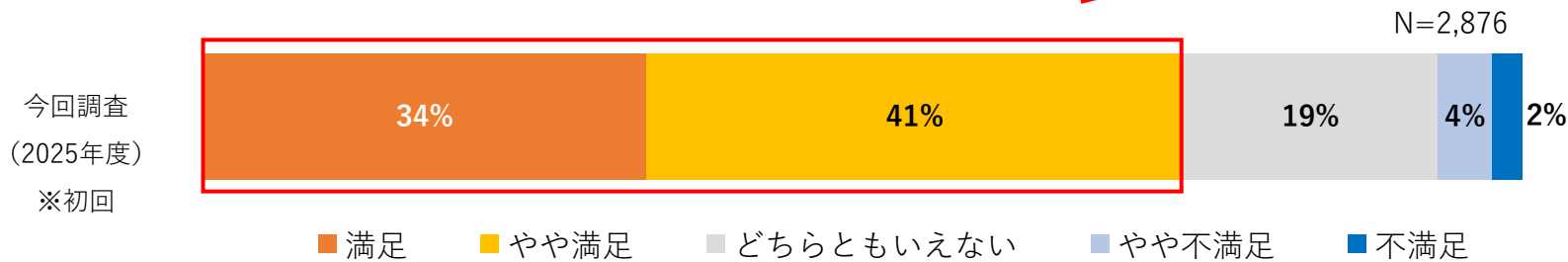
【職級等別】



□ 総合的な満足度

質問 | 勤務時間制度等の総合的な満足度を回答してください

「満足」又は「やや満足」約75%

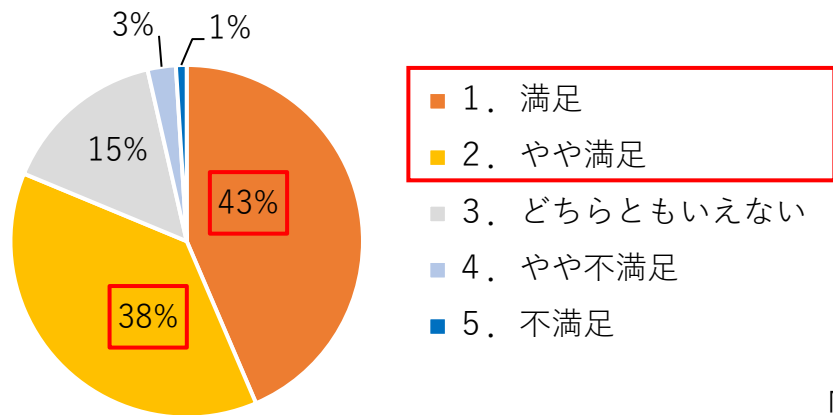


- ✓ 勤務時間制度等の総合的な満足度（「満足」又は「やや満足」と回答した職員の割合）は約8割であり、「やや不満足」又は「不満足」と回答した職員は1割未満に留まっている。
- ✓ また、勤務時間制度の活用は、ライフ・ワーク・バランスの向上につながっているほか、業務効率性に一定の効果を示し、それに伴い超勤縮減や生産性向上にも寄与している。

① 時差勤務（勤務開始時間を午前8時まで、または午前10時以降に設定している職員）

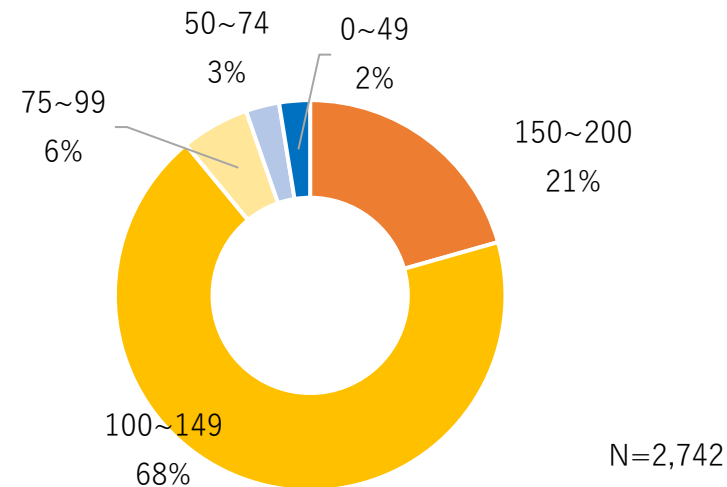
■ 時差勤務に関する満足度

質問 | 時差勤務に関する満足度を回答してください



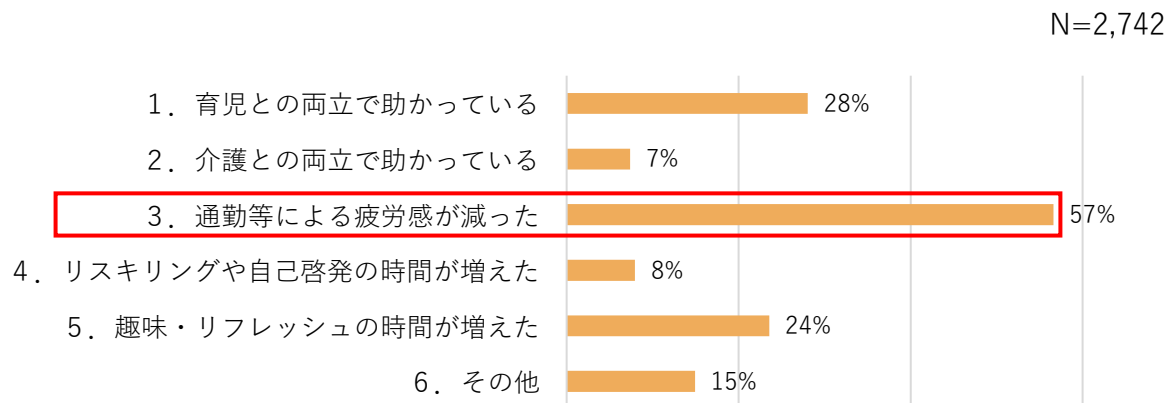
■ 時差勤務活用時の業務効率性

質問 | 通常勤務の効率性を100としたとき、時差勤務活用時の業務の効率性はどのくらいですか。0~200の数字で回答してください

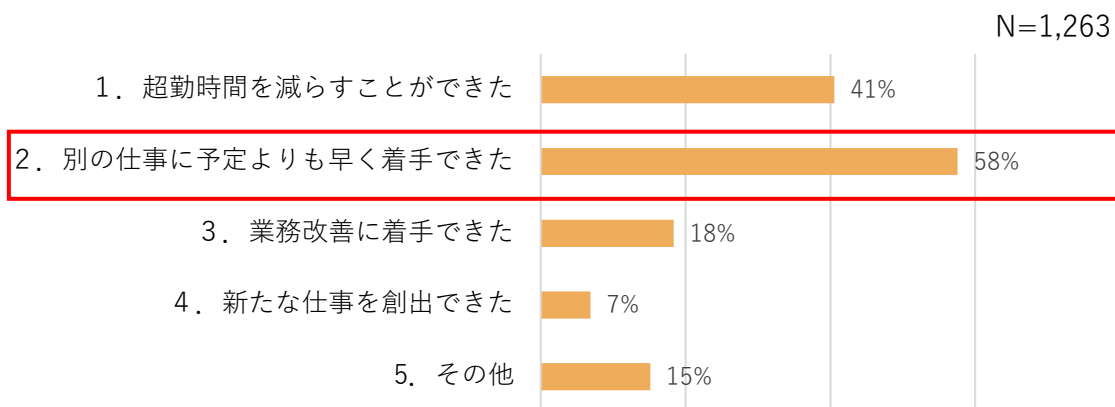


■ ライフ・ワーク・バランス上の変化

質問 | 時差勤務を活用することで生じたライフ・ワーク・バランス上の変化等について、当てはまるものを全て選択してください（複数回答可）



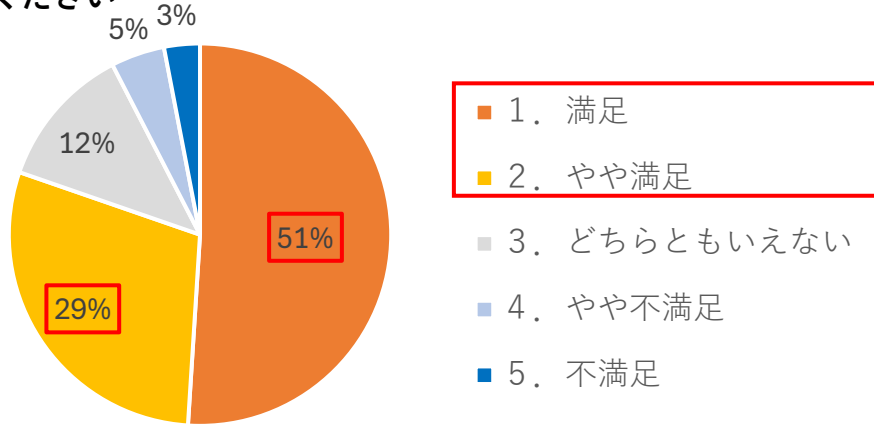
質問 | 【効率性が100より大きい方にお聞きします】効率的に業務ができたことで得られた時間は何に活用できましたか（複数選択可）



② フレックスタイム制（週休日の追加なし）

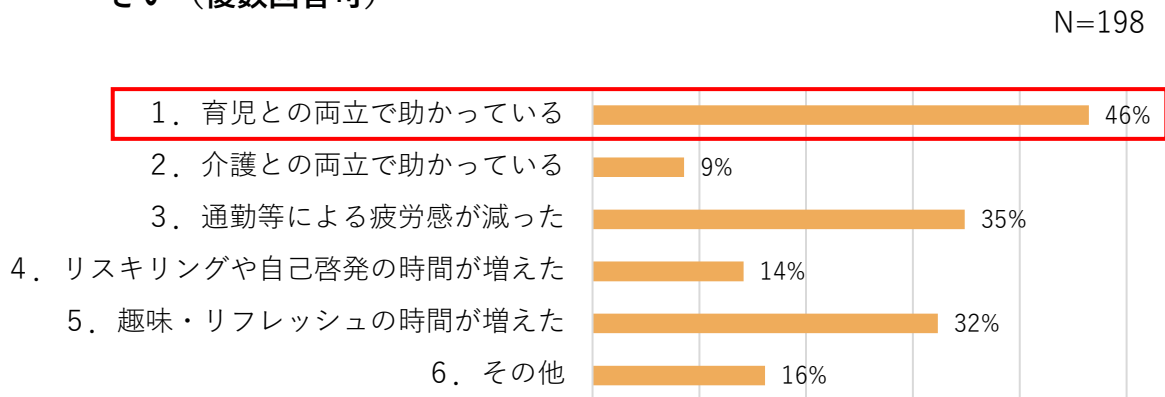
■ フレックスタイム制（週休日の追加なし）に関する満足度

質問 | フレックスタイム制（週休日の追加なし）に関する満足度を回答してください



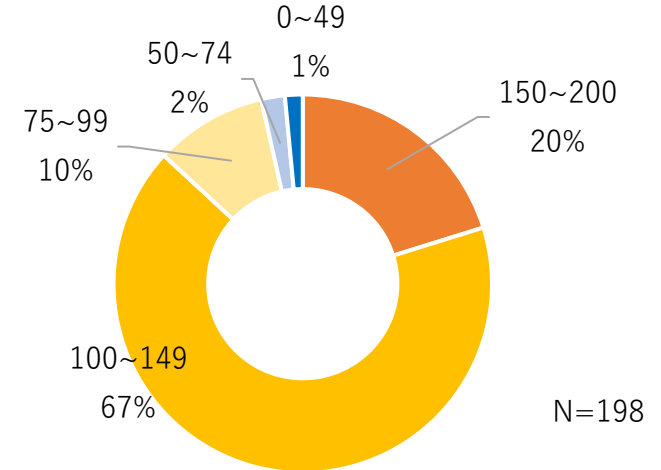
■ ライフ・ワーク・バランス上の変化

質問 | フレックスタイム制（週休日の追加なし）を活用することで生じたライフ・ワーク・バランス上の変化等について、当てはまるものを全て選択してください（複数回答可）

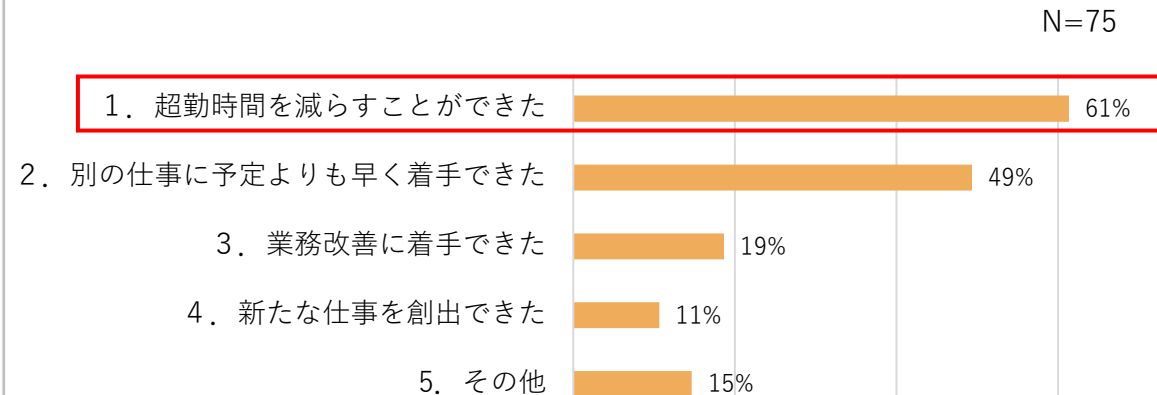


■ フレックスタイム制（週休日の追加なし）活用時の業務効率性

質問 | 通常勤務の効率性を100としたとき、フレックスタイム制（週休日の追加なし）活用時の業務の効率性はどのくらいですか。0～200の数字で回答してください



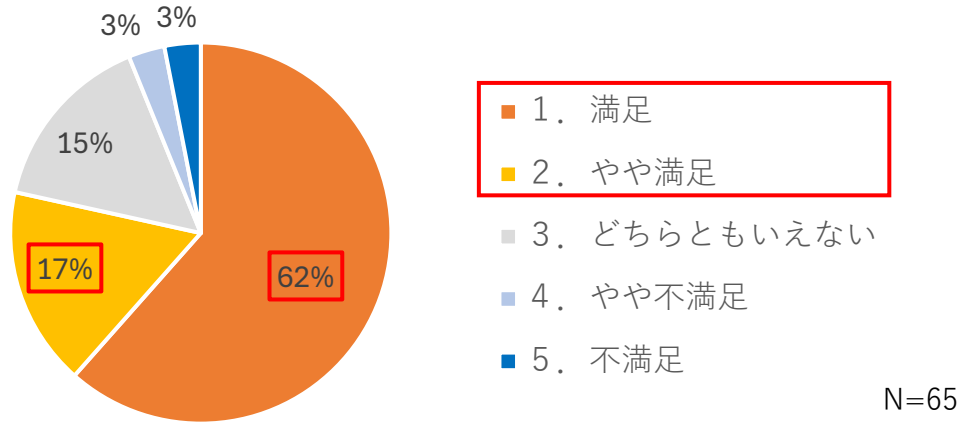
質問 | 【効率性が100より大きい方にお聞きします。】効率的に業務ができたことで得られた時間は何に活用できましたか（複数選択可）



③ フレックスタイム制（週休日の追加あり）

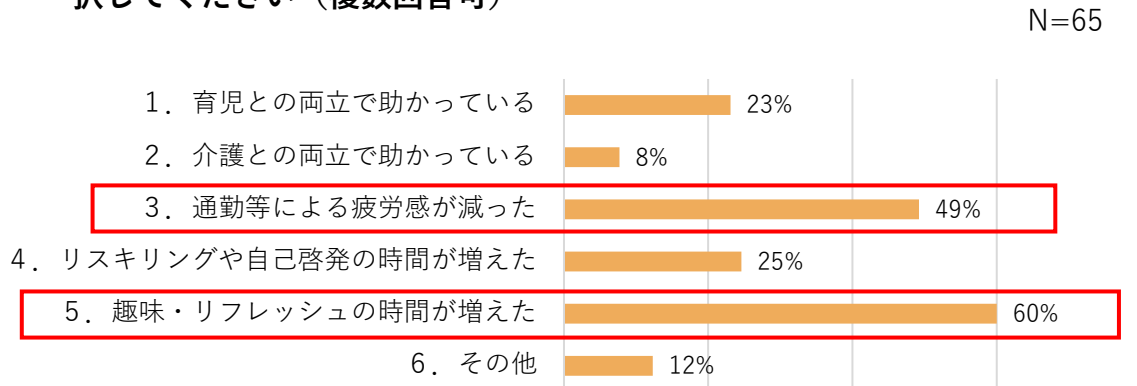
■ フレックスタイム制（週休日の追加あり）に関する満足度

質問 | フレックスタイム制を活用した「週休日の追加」に関する満足度を回答してください



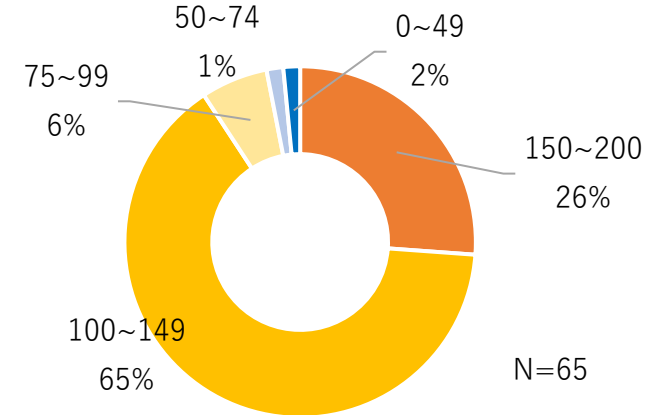
■ ライフ・ワーク・バランス上の変化

質問 | フレックスタイム制を活用した「週休日の追加」を活用することで生じたライフ・ワーク・バランス上の変化等について、当てはまるものを全て選択してください（複数回答可）

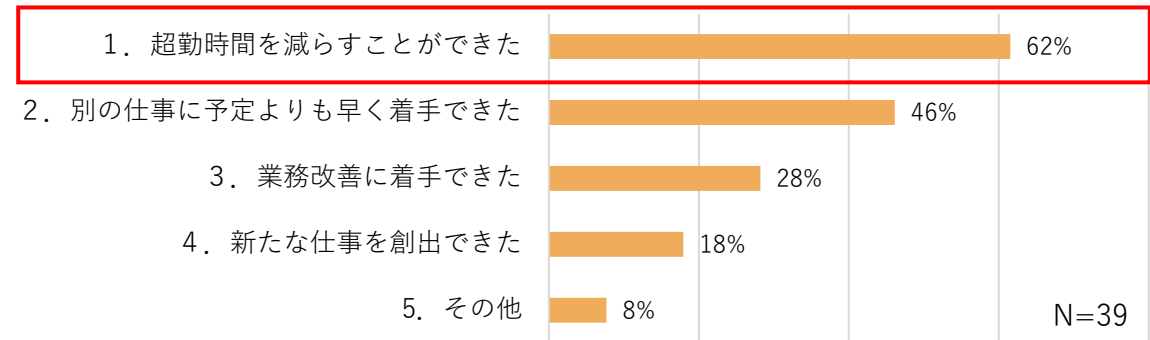


フレックスタイム制（週休日の追加あり）活用時の業務効率性

質問 | 通常勤務の効率性を100としたとき、フレックスタイム制（週休日の追加あり）活用時の業務の効率性はどのくらいですか。0～200の数字で回答してください



質問 | 【効率性が100より大きい方にお聞きします。】効率的に業務ができたことで得られた時間は何に活用できましたか（複数選択可）



【参考】令和7年度上半期にフレックスタイム制（週休日の追加）を活用したことで創出された手取り時間 **一人当たり 約2.5日出勤分**（※）
（フレックスタイム制（週休日追加）実施職員）

※追加された週休日の延べ日数に、平均通勤時間（1時間35分）をかけて算出した時間を制度活用人数で割り返したもの（1日7時間45分勤務）